てんぷら新聞

09.9.No14
発行責任 市岡昭夫
0883-88-5292

―私たち雨が降きです―

良くも悪くも地域をささえているのは、公共事業という名の道路作り。東祖谷の中も農道・林道が迷路のように走っている。山の渠道国道が崩落した時には、迂回道として走れるので孤立することをまぬがれ、地域を支えている事も事実。その他にも「金のなる木」がある。それは補助金です。ほとんどの事業が、まず補助金ありきからスタートしています。従って、この補助金がなくなると、当然のように事業がストップしてしまう。そして、次の補助金をさがして、また新たな事業をはじめてしまう。

地域がかわる

合併しても、この悪しき循環はまだまだ力を持っているらしい。

なぜなら、金のなる木を育てなくても、金の成る木に集まる方が、ずっと楽で苦労をすることがないからだとおもいます。

十年経っても二十年経っても、成長しなくていいのですから、誰だって仲間になりたいもんです。

でも、これで、地域が変わるだろうか。

変わるとすれば、何も考える必要のない、言われたり、指導してくれる人がいればいい人が多くなるだけの変わり方ではないでしょうか。

八月三十日の「民意」が本物であれば、地域を変えるのは、地域に住んでいる私達であるということを、新ためて力説する必要もないでしょう。

たとえ、小さな事でも、私達自身の生きる方向を変えていけば、意識が変わり、行動が変わり、世の中が変わっていくのではないでしょうか。

補助金ありきの事業ではなく、私達が、やりたい事を、自分の判断で実践していく事が地域を変えていく近道ではないでしょうか。

地域を変える

「金のなる木」に変えていく、金のなる木を育てるには、地域の私達自身が自分の知恵と行動で汗を流すことが大切だとおもいます。

小さな一歩が踏み出せるかどうか。

畑に、花の咲く木を植え続けた老夫婦の話とか、自分たちが大切な地域をどうするか、で花いっぱいにして楽しんでると人々が集って来た等々の事を知ると、今一度、東祖谷地域を見ると、どう映りますか。

雨が多くて、家にこもっていると頭ばかり考えてしまいます。

グチが多くなって今月はスミマセン